

平成30年 6月24日(日)

12:00開演(11:00開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

料金:全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階棧敷席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円(25歳以下、要学生証提示)

・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。

お気軽にご参加ください。

・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催: 公益財団法人 十四世六平太記念財団

協力: 喜多流職分会

後援: 品川区、品川区教育委員会

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会

船 百 天

橋 萬 鼓
栗 谷 充 雄
内 田 成 信
中 村 邦 生

喜 多 流
自 主 公 演

平成三十年六月

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

①セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

②喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

①セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

②郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。
入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。

ご予約の際ご案内いたします。

※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

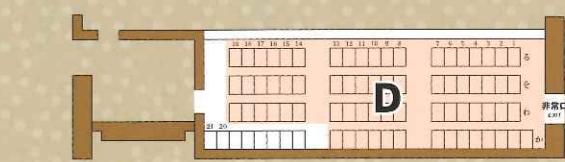
- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー・見所でのご飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り 35,000円

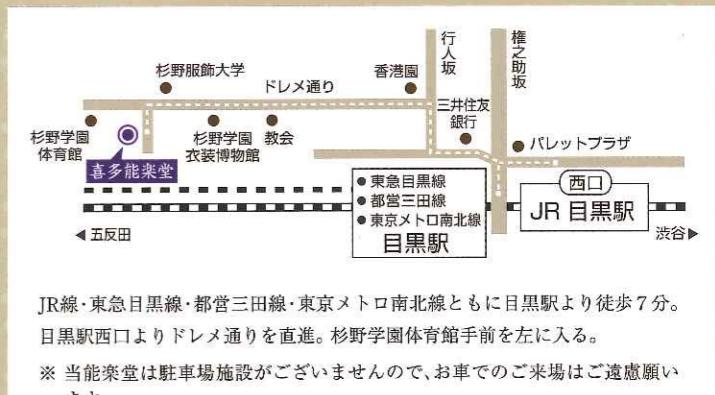
- ◆ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な年間優待券です。
- ◆お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
- ◆ご観観の際は別途、座席指定券をご予約ください。
 - ・追加料金はかかりません。
 - ・ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。
 - ・年間優待券のみでのご観観はできません。
 - ・ご入場の際は、年間優待券と座席指定券をご提示いただきます。
- ◆ご利用は、表記年度中(4月～3月)の喜多流自主公演のみ有効です。
青年能には使用できません。

自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席(1階棧敷席)	6,500円
A席	8,000円	D席(2階席)	6,500円
B席	7,000円	学生席(2階席)	2,500円

会場案内図



十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999

喜多能楽堂ホームページ: <http://kita-noh.com/>

六月 自主公演番組

天鼓（てんこ）

後シテ天鼓
前シテ天鼓の父

中村邦生

能

天鼓

ワキ・勅使 大日方 寛

大鼓 柿原崇志 太鼓 金春國直

小鼓 曾和正博

笛 松田弘之

アイ・官人 善竹大二郎

渡辺 康喜 高林呻二

後見 塩津哲生

谷 友矩 粟谷明生

松井 彰

友枝真也 大村定

高林昌司

友枝雄人

狂言

茶

壺

シテ・すっぽ 善竹十郎

アド・中国地方の者 善竹富太郎

アド・自代 野島伸仁

柿原弘和 太鼓 林雄一郎

能

子方・百萬の子 内田利成

シテ・百萬

内田成信

ワキ・僧 御厨誠吾

大鼓 柿原弘和 太鼓 林雄一郎

小鼓 観世新九郎 笛 中谷明

アイ・秋迦堂門前の者 善竹十郎

地謡 佐藤 富太郎

友枝昭世

地謡 佐藤 富太郎

内田安信

地謡 佐藤 富太郎

金子龍晟

地謡 佐藤 富太郎

佐藤寛泰

地謡 佐藤 富太郎

栗谷浩之

地謡 佐藤 富太郎

友枝雄太郎

地謡 佐藤 富太郎

金子敬一郎

地謡 佐藤 富太郎

大島政允

地謡 佐藤 富太郎

佐藤寛泰

地謡 佐藤 富太郎

小野寺真佐人

地謡 佐藤 富太郎

小野寺竜一

地謡 佐藤 富太郎

休憩（二十分）

能

子方・百萬の子 内田利成

シテ・百萬

内田成信

茶壺（ちやつぼ）

京都の梅ノ尾で茶を買ひ求めてきた西国の人者が、途中で立ち寄った知人の家で酒をふるまわれ、酔つて道に寝てしまう。そこへ通りかかつたすっぽ（盜賊）が西国の人者の茶壺に目をつけ、背負つていた荷物の繩の片方に自分の肩を入れ、背中合わせに横になる。日の覚めた西国の人者が茶壺は自分の物だと争うところへ、所の裁人（代官）が現れて訴をたずねる。西国の人者が茶の產地や商品明細について謡い舞いながら説明をすると、すっぽも盗み聞きして同じように答える。二人一緒に舞わせてみると、すっぽは西国の人者の所作を見ながらたどしく舞い納めるが、結局裁人は「論ずるもののは中より取れ」とのことわざがあるといつて、茶壺を奪つて逃げ行く。

（約二十五分）

百萬（ひやくまん）

稚児連れの僧が、嵯峨清涼寺で行なっている大念仏にやつてくる。僧は門前の者に稚児のために何か面白いことはないかと尋ねる。男はわざと下手に念仏の音頭をとつて百萬という物狂いを誘い出す。百萬は自ら念仏の音頭をとりながら生き別れた子供のことを舞い歌う。すると稚児が、この物狂いは母かもしれないというので、僧は百萬に事の次第を訪ねる。百萬はこれまでに諸国を尋ね歩いたことを舞い歌ううちに気持ちが高揚して、群衆の中に我が子を探しまわる。見かねた僧は、百萬に稚児を引き合わせる。百萬は仏に感謝し、子供と都へ帰つてゆく。

（約七十分）

船橋（ふなばし）

三熊野の山伏が上野国佐野への山路を行くと、男と女が現れて橋の建立の勧進をする。山伏は橋建立の謂われを尋ね、また万葉集の歌に「東路の佐野の船橋取り放し」と「鳥は無し」があるが、どちらが本説かと尋ねると、男はそれについての言い伝えを語り始める。昔、川を隔てて住む男女がこの船橋を逢瀬の通い路にしていたが、それを良しとしない親が橋の板をはずしたため、男は川に落ちて亡くなつた。その妄執の罪で地獄に落ち成仏することもなかつたと語り、実は我々がその男女の靈であると云い、そして弔いを頼んで姿を消す。（中入）山伏が祈祷をしていると、先程の男女の靈が現れて、男は地獄の苦しみを見せ、懺悔の為に昔、通い慣れた船橋を渡つて妻に会いにいく様子を再現し、山伏の法力で成仏が出来たと告げて、消えていった。

（約八十分）

船橋

シテ・連里女の靈 佐藤 陽

後シテ・里男の靈 栗谷 充雄

ワキ連・同行 梅村昌功

アイ・佐野の里人 善竹富太郎

後見 香川 靖嗣

谷 大作

狩野祐一 佐々木多門

谷 友矩 狩野了一

塩津圭介 粟谷能夫

高林昌司 大島輝久

平成三十年九月二十三日（日）正午始

十四世喜多六平太記念能楽堂